

くるめの文化財

昭和63年3月
第4号
東久留米市教育委員会

●●●特集 東久留米市の指定文化財●●●

東久留米市には、私達の身近な歴史や生活を物語る文化財が数多く残されています。

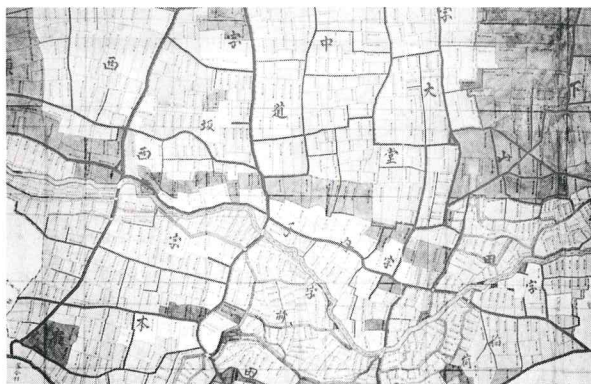
市では、これらの文化財を保護し後世に伝えていくため、特に重要なものについては所有者の協力をえながら、市文化財保護審議会の答申のもとに市の文化財に指定しています。

ここでは、指定文化財の代表的なものを紹介します。



よねきず ▲米津家歴代の墓地 (幸町4丁目2 べいしんじ 米津寺内)

米津家は江戸時代、東久留米市内に藩領を有した大名として知られています。この墓所には、米津たもり盛公をはじめ四代の藩主と一族の墓石があります。



▲明治時代各村地引絵図 (市所有)

ちぞかいせいず 地租改正図ともいわれ、明治初年に測量・製作された基本的な村絵図で、旧村別の全図9枚と字別の切図76枚からなっています。市の全域がそろっている数少ない例であり、明治初期の東久留米の景観を知ることができる貴重な資料です。



▲べんざいてんひ 弁財天碑 (中央町5丁目9・弁天フイッシングセンター内)

かえい 嘉永2年(1849)に作られた弁財天で、技術的に優れたものです。



▲南沢獅子舞 (南沢 3丁目5 氷川神社)

獅子舞は、江戸時代初期ごろから旧南沢村に伝わり、南沢の秋祭りに催されます。この奉納舞は五穀成就の舞で、疫病災禍悪魔退散の舞でもあります。



▲天正十一年板碑

(東久留米市所有)

天正十一年(1583)銘が彫られた多摩地方で最も新しい板碑です。隆弁阿闍梨という僧名学位も記され、中世の歴史を知るうえで貴重です。



▲おはやし

江戸末期から伝わるおはやしで、^{こうやま こやま}神山・小山の^{かんだ しもぎと すずき やなぎくぼ じゅうま}神田流、下里の鈴木流、柳窪の重松流があります。神田流はゆったりとしたリズムをもち、重松流は^{へんげん}変幻自在型、鈴木流は軽快でにぎやかな調子をもつなどそれぞれに特徴がみられます。

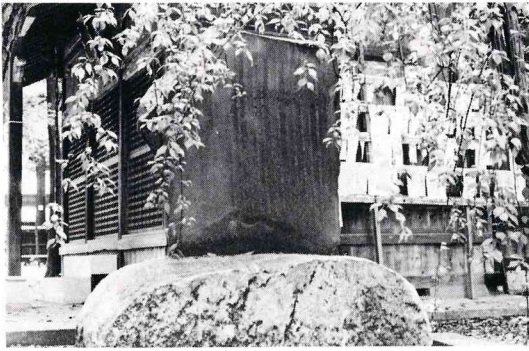


▲多聞寺山門 (本町 4丁目13 多聞寺)

この門は嘉永五年(1852)に造立されたもので、^{しきやくもん そう きりづま どういたぶき}四脚門、総ヶヤキの切妻造り、屋根は銅板葺です。^{ぜんしゅう}禅宗様を主とした^{せつちゆう}折衷様で作られており、^{ひかえしら}控柱上部の獅子鼻や妻の海老虹梁の彫刻には江戸末期の地方的建築技術の特徴がよくあらわれています。

▲多聞寺前遺跡出土品一括 (東久留米市所有)

多聞寺前遺跡(南沢 1丁目)の発掘調査によって出土した先土器時代から縄文時代の生活用具です。約 25000 年前の石斧や写真のようなイノシシの装飾のついた約5000年前の土器も発見されました。



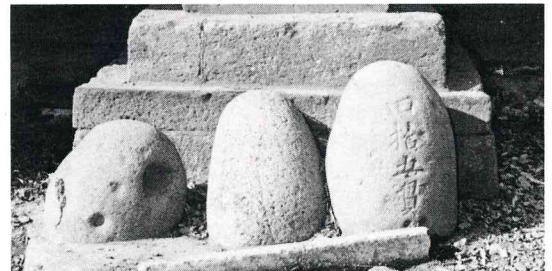
やなぎくぼばいりん
▲柳窪梅林の碑（柳窪5丁目15 天神社内）
あんせい
安政四年(1857)造立。この碑には現在の久留米が「来梅」とか「来目」などと記され地名の由来を物語る一つの説となっています。また、刻まれている碑文は当時の文化的水準を知るうえでも貴重です。



こくひつ
▲穀櫃（小山2丁目10 大円寺内）
江戸時代の弘化年間(1844～1847)に飢きんに備えて、穀物を保存するために作られたもので、市内に現存する数少ない穀櫃の一つです。



ぼとうかんのん
▲馬頭観音塔（小山2丁目10 大円寺）
もとは下里にあったもので、天保九年(1838)の造立です。道標もかねており、東板橋・西八王子・南江戸四ッ谷・北川越といずれも五里の所にあることからゴリゴリ馬頭と呼ばれて親しまれています。



いしはし
▲石橋供養塔ならびに力石（小山4丁目1）
塔の前にある三つの石は力石と呼ばれ、かつて農村の若者たちの力くらべに使われた石です。約94キロから約169キロもある石を持ちあげることが一人前の若者の基準ともなっていました。

●昭和62年度、市に文化財を寄贈して下さった方（敬称略）

- *「縄文式土器」 井上 誠
- *「台ばかり・杵」 島崎晴作
- *「足踏式脱穀機・押し切り」 海老沢貞夫
- *「大八車・水こし瓶・自在鉤・くるり棒・繭乾燥棚・羽釜・ワラジあみ台・畝引」 高橋昌好
- *「柱時計・内裏様」 大島達司

☞文化財に関するお問い合わせは、市役所 73-5111 内線 343 文化財担当まで

... ◆ ...

編集 東久留米市教育委員会
社会教育部社会教育課
〒203 東久留米市幸町3-11-10

市指定文化財一覽

昭和63年3月末現在

	名 称	年 代	所 在 地	指 定 年 月 日
無形民俗文化財	南 沢 獅 子 舞	江戸時代	南沢 3 丁目氷川神社	昭和42. 3. 4
	柳 窪 囃 子	江戸時代末	柳窪 4 丁目天神社	"
	下 里 囃 子	"	下里 2 丁目氷川神社	"
	小 山 囃 子	"	小山 1 丁目子の神社	"
	神 山 囃 子	明治時代初期	神宝町 1 丁目氷川神社	"
有形民俗文化財	馬 頭 観 世 音 塔	延享元年 (1744)	下里 3 丁目路傍	昭和42. 12. 16
	庚 申 塔	明和元年 (1764)	柳窪 4 丁目火の見下	"
	石 橋 供 養 塔	明和 6 年 (1769)	"	"
	庚 申 塔	元禄 6 年 (1693)	前沢 1 丁目三叉路	"
	庚 申 塔	明和元年 (1764)	南町 2 丁目路傍	"
	庚 申 塔	享保18年 (1733)	中央町 3 丁目路傍	"
	庚 申 塔	延享 3 年 (1746)	小山 2 丁目大円寺門前	"
	庚 申 塔	延宝 8 年 (1680)	"	"
	庚 申 塔	元禄 7 年 (1694)	南沢 2 丁目笠松坂	"
	庚 申 塔	宝暦 7 年 (1757)	南沢 1 丁目老松橋	"
	常 夜 塔	文化元年 (1804)	"	"
	庚 申 塔	享保19年 (1734)	氷川台 2 丁目金山塚	"
	馬 頭 観 世 音 塔	天保 9 年 (1838)	小山 2 丁目大円寺門前	"
	地 蔵 菩 薩	明和 5 年 (1768)	中央町 5 丁目三叉路	"
	地 蔵 菩 薩	元禄 8 年 (1695)	神宝町 2 丁目路傍	昭和56. 4. 6
	地 蔵 菩 薩	享保 3 年 (1718)	中央町 5 丁目三叉路	"
	地 蔵 菩 薩	嘉永 2 年 (1849)	神宝町 2 丁目宝泉寺	"
	廻 国 供 養 塔	宝暦13年 (1763)	浅間町 2 丁目墓地入口	"
	不 動 明 王 檀	文政 9 年 (1826)	新川町 1 丁目不動橋際	"
	穀 櫃	弘化年間 (1844~7)	小山 2 丁目大円寺内	昭和59. 3. 31
石 橋 廻 国 供 養 塔	宝暦10年 (1760)	中央町 3 丁目路傍	"	
石 橋 供 養 塔・力石	明治23年	小山 4 丁目生活改善センター前	"	
庚 申 塔	文久 3 年 (1863)	新川町 2 丁目路傍	"	
弁 財 天 碑	嘉永 2 年 (1849)	中央町 5 丁目 9	昭和62. 3. 25	
地 蔵 菩 薩	宝永 3 年 (1706)	柳窪 5 丁目 6	"	
有形文化財	新山遺跡出土品一括	縄文時代中期	下里小学校内展示室ほか	昭和56. 4. 6
	板絵弁財天十五童子図	文化10年 (1813)	神宝町 2 丁目宝泉寺	"
	多聞寺山門	嘉永 5 年 (1852)	本町 4 丁目多聞寺内	"
	十三仏板碑	嘉吉 2 年 (1442)	八幡町 2 丁目高橋家墓地	"
	多聞寺三代住職逆修供養板碑	明応 7 年(1498)ほか	本町 4 丁目多聞寺	"
	月待板碑	永正13年 (1516)	小山 2 丁目大円寺	"
	阿弥陀如来立像画像板碑	鎌倉ないし室町初期	下里 1 丁目石塚家墓地	"
	下里本邑遺跡出土品一括	先土器 一 平安時代	野火止 3 丁目同遺跡館ほか	昭和59. 3. 31
	多聞寺前遺跡出土品一括	先土器、縄文時代	中央町 2 丁目保存整理室	昭和59. 8. 28
	富士講関係文書	江戸時代	野村利実氏所有	昭和62. 3. 25
明治時代各村地引絵図	明治時代初期	中央町 2 丁目保存整理室	"	
天正十一年板碑	天正11年 (1583)	中央町 2 丁目保存整理室	"	
史跡	米 津 家 墓 地	江戸時代	幸町 4 丁目米津寺内	昭和56. 4. 6
	柳 窪 梅 林 の 碑	安政 4 年 (1857)	柳窪 4 丁目天神社内	昭和59. 3. 31
	神 谷 家 墓 地	江戸時代	大門町 1 丁目浄牧院内	"

東京都指定文化財一覽

史跡	新 山 遺 跡	縄文時代中期	下里中学校校庭	昭和53. 3. 16
	下 里 本 邑 遺 跡	先土器 一 平安時代	下里本邑遺跡公園	昭和59. 3. 22